

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護総合演習Ⅱ Care Practice Support Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (介護福祉士養成課程必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
介護総合演習Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
久保 由佳	福祉棟2F	月・火・水・木・金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
介護総合演習Ⅰをもとに、多様な実習形態を通して、利用者およびさまざまな生活の場や介護の場の理解を深める。また、介護過程の第1段階である利用者の情報収集について、その必要性を理解するとともに具体的な方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
①多様な生活や介護の場を通して、利用者の理解を深められるようにする。 ②各介護実習のオリエンテーションや反省会を通して、実習の効果や課題を明確にできるようにする。 ③各介護実習に必要な記録の重要性を理解し、適切な記録ができるようにする。				
授業の方法				
講義・演習・視聴覚教材の活用・グループワーク・実習オリエンテーションおよびまとめ等、多様な授業形態をとる。実習記録については演習と個別指導を取り入れる。				
学習の成果				
①利用者を総合的に捉え、介護の個性を理解することができる。 ②介護福祉士に求められる倫理性を理解し、専門職としての姿勢を身につけることができる。 ③基礎実習Ⅰでの体験を振り返り、次段階実習に向けた課題を明確にすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業のねらいと進め方・成績評価の方法など) 基礎実習Ⅰの振り返り・まとめ *レポート①：基礎実習Ⅰの反省会用紙			
第2回目	介護倫理 (介護倫理とは、社会福祉士法及び介護福祉士法)			
第3回目	スーパービジョン、ひやり・はっと事例			
第4回目	視聴覚教材による学習 *レポート②：VTR「ここに響く接遇」を視聴した感想・学び			
第5回目	居宅サービスおよび居宅介護実習先の理解			
第6回目	基礎実習Ⅱ、施設介護実習Ⅰ 準備 (施設情報一覧と希望調査票の配布・説明)			

第7回目	居宅介護実習Ⅰ (訪問入浴) 準備 (実習上の留意点、実習記録一式配布) 訪問入浴車による入浴デモンストレーション (日程は決定次第、連絡する) *レポート③：訪問入浴車による入浴の実際を見学した感想と学び		
第8回目	感染症対策 (予防) の基礎知識		
第9回目	利用者の情報収集について (情報の必要性とICFの視点からの情報収集) *胸部X-P：11月中旬～下旬予定		
第10回目	実習記録① 「利用者記録」の記録方法、家系図の作成		
第11回目	基礎実習Ⅱ、施設介護実習Ⅰ 準備 (個人票、誓約書、「課題と抱負」用紙配布・説明)		
第12回目	実習記録② 利用者の特定の仕方、行動計画 *レポート④：「利用者記録」の書き方演習		
第13回目	実習記録③ 「利用者記録」個別指導 基礎実習Ⅱ 準備 (検便容器配布・説明)		
第14回目	居宅介護実習Ⅰ (訪問入浴) 報告会・まとめ *レポート⑤：訪問入浴実習の振り返り 基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰ 準備 (検便容器配布・説明、実習記録一式配布)		
第15回目	授業のまとめ、基礎実習Ⅱ・施設介護実習Ⅰオリエンテーション *実習反省会は別日程にて実施		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		50%	以下の事柄で評価する。①授業で使用する教材を準備している。②授業に集中し、必要なことをノートにしている。③課題等の提出期限を守っている。④グループワーク時、自分の考えを述べている。
レポート		50%	課題のテーマに沿って学び・気づきが具体的に記述されていること、自分の考えがまとめられていることを基準に評価する。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
新・介護福祉士養成講座 第10巻「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 介護実習の手引き			
履修上の心得・ルール			
介護総合演習Ⅰに加え、他科目の復習を通して事前学習に積極的に取り組むこと。 実習関係書類の提出期限を厳守すること。 「介護実習の手引き」を毎回持参すること。			